八海山

〔越後名寄二魚沼郡〕八海山

高山、南信州上州ニ近ク、雪早ク降ル、頂ニ權現ノ万年堂有、石ニテ小ニ作リタル小社ヲ、俗ニ万年堂ト云、往昔銀ノ出シ事モ有シニヤ、

彌彦山

〔越後名寄二山〕彌彦山

伊夜彦、伊夜日子共ニ同ジ歌枕也、元來三劒山ト云ヘリ、二十餘町上リテ、頂ニ神廟トテ石ノ小社有、此ヨリ國中ノ眺望最モヨシ、東面ニシテ大老ノ松樹生茂リ、麓ノ尾上ニ一宮伊夜日子大明神鎮座也、里ノ名モ彌彦ト云、神領ノ農家ニテ、北陸道ノ驛也、杉ノ木ノ名物良材有、藥種品々有、又南西ノ方ニハ槐讓葉クロモジ等、其外雜木繁茂シ、年々山下ノ村里ニテ伐取故ニ、柴トナリテ大木ナシ、北ノ方ハ石瀨山、西ノ下ハ海渚也、野積村ヨリ間瀨浦ヘ往來スルニ、磯山ノ嶺ヲ行、大鳥越小鳥越ト云難所也、

〔萬葉集十六有由緣并雜歌〕越中國歌四首

伊夜彦、於能禮神佐備、青雲乃、田名引日須良、霖曾保零、

丹後國大江山

〔書言字考節用集一乾坤〕大江山丹波丹後境、事見二風土記一、

〔閑田耕筆一〕大江山二所あり、山城丹波の界、樫原の西に、俗老の坂と稱ふるもの、大江山の坂を誤る也、和名抄乙訓郡大江とあり、慈鎮和尚の御歌にも、大江山かたぶく月の影さえて鳥羽田の西に落る雁がね、とあるは是也、此山つゞき小鹽良峯今作二善峯一と、南へかけて都の西に屏風を引たるごとし、又丹波丹後の界なるものは、酒呑童子といふ賊の籠りし所にて、今千丈が嶽といふ、大江山いくの丶道の遠ければ、と小式部内侍のよみしは、其母和泉式部、保昌朝臣にたぐひて、丹後に有しほどなれば、そなたなること知べし、

〔萬葉集十二古今相聞往來歌〕寄物陳思